



社会福祉法人

熊本いのちの電話

KUMAMOTO INOCHINODENWA

通信 56号 平成29年新年号



子どもに愛を 老人に生きがいを

一般社団法人 舞踊団 花童
代表理事 中村 花誠

皆様、明けましておめでとうございます。また熊本地震で被災された多くの皆様には心よりお見舞い申し上げます。

私は若い時から熊本の歴史、文化、芸能等をベースにして、熊本の未来に向かって伝統文化の花を開かせていきたいという思いがありました。それが熊本へ帰って来てからはますます強くなり、実行に移すことになりました。活動を始めてみると、地元の数多くの方々から次々と力強いご支援、ご協力を頂くことができ、「ああ、これが熊本の文化の底力なのだ」と改めて感じています。

日本の伝統芸能は、幼少からその道に入り、小さい時からの修行を重ねて行くことによって大成するものが多いとされています。平成12年に舞踊団 花童を結成し後継者の育成を志しましたが、発足時からのメンバーは20才となっていますから当時はまだ幼児でした。私は期待をし、愛と思いやりと、手をそえた教育を厳しく指導して来ました。昔から云われている通り、芸の道は厳しいことを私も自分の人生で肌で感じてきたからです。子どもたちもその期待に応えてくれました。そのうち子どもたち自身も「自分たちがこれからの熊本の役に立っていくんだ」という自負をもってますます精進して積極的に取り組むようになってきました。

ここまでの気持ちを育て、大きく支えてくださったのは家族と母の愛でした。全てにおいてピッタリと子どもに寄り添い、手をさしのべお稽古も休むことなく、舞台本番も年間200公演を母とともに取り組む日々が親子の絆を深め「あきらめない」という心と精

神が出来あがったと思います。きっと子どもたちの心の底とは安心と見守られているという温かい母の愛と、大人の思いやりを言葉ではなく身体と魂で感じとったのでしょう。

そしていつも数名のグループで踊らなければならない子どもたちは「自分のためだけではなく、誰かにおかげを頂いて学ばせてもらっている」と思っています。人と人との繋がり、見守ってくれているという実感を子どもたちは感じているからこそ苦しい、悲しい稽古も乗り越えられると思います。

また、踊りを通して想像力や感性も磨き上げられていくので人の心の痛みも思いやることができるような女の子になってくれることなのでしょう。私は日々心で頑張っている花童の踊りを観賞して下さった皆さんには、きっと、心で受け止めてくれていると思っています。それは子どもたちの踊りには無理がなく、優しさや心地良さがあるからです。私は花童の子どもたちに常に語り背中をおし続けている事があります。それは、「宇宙まで行くよ～。終りはないよ～。」花童は「子どもに愛を・老人に生きがいを」この言葉が花童の踊りです。

私は地域の活性化・伝統文化の育成を通して多くの悩みをもった相談者の皆様へ生きがいを少しでも感じていただけたらと心より願っています。「いのちの電話」のステージは「純粹」をベースに悩みを抱えている方々の拠り所として、存在しつづけることが出来たらうれしいです。今年も「いのちの電話」の皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

通信56号 目次

巻頭言	P1	被災者からの電話	P4	感謝報告	P6
熊本地震とその後の対応について	P2	全国研修会に参加して	P5	活動報告	P8

相談電話 096・353・4343



熊本地震とその後の対応について

平成28年4月14日の熊本地震前震および16日の本震発生から11月までの7ヶ月間の「熊本のいのちの電話」の活動について報告いたします。

1 地震直後

14日の前震により熊本のいのちの電話の事務室、電話相談室の本棚やロッカー、印刷機、テレビが転倒し、書籍や書類などが散乱しましたが、幸い当日の担当相談員にはけがもなく無事でした。

その後、相談員全員の安否確認を急ぎ、全員の無事を確認しました。しかし、熊本センターの建物は安全が確認できない上、断水が続いており、やむなく電話相談を一時中止することとしました。



2 相談電話の転送

電話相談を一時中止したものの、熊本のいのちの電話にかかってくる相談電話を少しでも受けることができないか、北九州、福岡、佐賀、鹿児島各センターへ協力を求め、4月22日から電話の転送を開始、5月24日までの約1カ月間で145件転送することができ、この間に被災した相談員は生活再建に専念することが出来ました。

表1 転送電話の実績

センター名	受信件数	受信期間
北九州	68	4.22~5.30
福岡	25	5.30~5.10
佐賀	16	5.10~5.17
長崎	36	5.17~5.24
合計	145	4.22~5.24

3 「熊本のいのちの電話」の再開

前震から40日目となる5月24日から熊本のいのちの電話を再開することとしましたが、相談員の中にはまだ深刻な状況の方もいて、相談員自身が心のケアを必要とする時期でもあり、地震前の実働人数の約8割の体制での再開となりました。

この時期、相談電話にかけてきた方から相談員が逆に励まされたこともありました。全国のいのちの電話の皆さんからもたくさんの激励やお見舞いをいただき、あらためて感謝申し上げます。

4 フリーダイヤルによる「熊本地震いのちの電話」の開設

熊本センターの受信体制が十分でない一方、被災者からの相談電話は増加することが予想される時期に、タイミングよく地震対策を資金面で支援する団体（チャイルド・ファンド・ジャパン）と出会い、フリーダイヤルによる企画を提案したところ、直ちに支援の約束をいただき、九州・沖縄の各センターの協力を得て準備を進めました。

熊本県庁記者クラブでの企画の発表、ポスター、チラシによるPR等を実施し、7月1日からフリーダイヤルによる「熊本地震いのちの電話」としてスタートすることができました。

この「熊本地震いのちの電話」の仕組みは、発信は熊本県内限定ですが、フリーダイヤル0120-87-4343にかけると、九州・沖縄の8センターの通常の相談電話の空き回線を探して、つながるようにしました。ところが、この方式には思わぬ落とし穴が待ちっており、そのことで悪戦苦闘する日々が始まるとは想定外のことでした。



5 想定外の問題

フリーダイヤルにかけて、あるセンターが通常の相談電話で話中の時には、他のセンターに迂回するはずですが、迂回しない現象が頻発してしまいました。原因がわからないので、試行錯誤を繰り返して、北九州、福岡、大分の3センターだけは正常に迂回することがわかり、7月末からはこの3センターだけでフリーダイヤルを受けざるを得なくなりました。

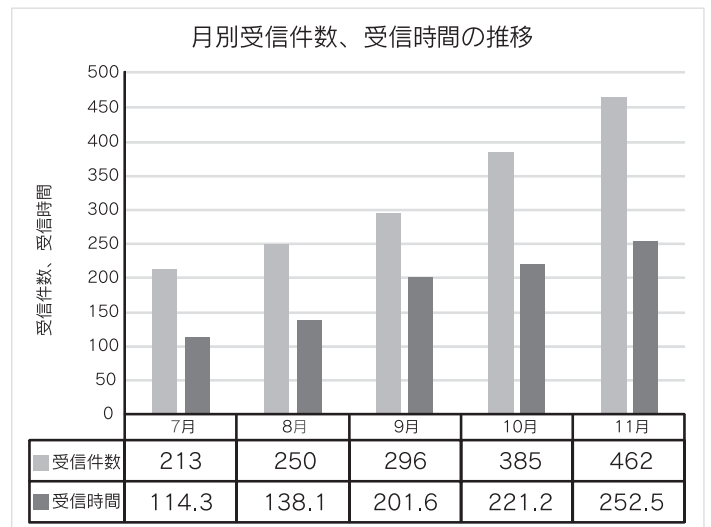
8月半ばに、NTTから「光回線でフリーダイヤルのオプションサービスを利用する場合には迂回転送機能が働かない場合がある。」と告げられ、光がダメならアナログ回線に戻したらどうかと考え、先ず熊本でアナログ回線に戻した結果、正常化が確認できましたので、他のセンターもアナログ回線化を進め、問題が解決しました。

6 受信センターの拡大と期間の延長

想定外の問題で振り回されていた時期、フリーダイヤルの受信件数は伸び悩んでいましたが、アナログ回線化による改善策とあわせて連盟の取り回りで10月1日から愛知、岐阜、三重、島根の4センターにフリーダイヤルの受信の拡大が出来、受信件数も増加してきました。

表2 熊本地震フリーダイヤル受信件数の推移

センター名	7月	8月	9月	10月	11月	合計
北九州	68	83	99	68	52	370
福岡	38	59	54	55	52	258
長崎	9	5	13	1	36	64
佐賀	5	0	0	0	0	5
熊本	8	12	51	52	56	179
大分	56	59	64	50	41	270
鹿児島	20	14	8	10	60	112
沖縄	9	18	7	52	56	142
愛知	—	—	—	31	32	63
岐阜	—	—	—	15	19	34
三重	—	—	—	9	23	32
島根	—	—	—	42	35	77
合計	213	250	296	385	462	1606



熊本で通常受信している相談電話件数とフリーダイヤルによる受信件数の合計を表3に示している。10月から受信態勢が強化されたことを反映して受信件数が増加している。

当初の予定ではフリーダイヤルによる「熊本地震いのちの電話」の施策は12月末までの予定でしたが、受信の状況、被災者の状況等を勘案し、チャイルド・ファンド・ジャパンでは平成29年3月まで支援の延長を快諾していただきました。感謝。

表3 熊本から発信した相談電話を受信した件数

	7月	8月	9月	10月	11月
熊本受信件数	1068	954	845	902	897
フリーダイヤル合計	213	250	296	385	462
熊本発信の相談受信件数	1281	1204	1141	1287	1359

7 おわりに

11月末には、地震の回数が4100回を越え、未だ終息は見え、被災者の多くは避難所から仮設住宅に移りましたが、これからが将来の不安や孤独、健康や経済的な悩みなど深刻な相談が増えてくるものと思われます。

全国の相談員からの激励、支援に感謝し、被災者の心に寄り添い、「熊本地震いのちの電話」と「熊本のいのちの電話」は共に頑張っていきますので、これからもご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



被災者からの電話

「熊本地震いのちの電話」の開設後しばらくは、かかってくる電話の本数も限られていましたが、新設したフリーダイヤルについての情報が伝わるようになり一旦かかり始めると、そこで語られる相談の内容には地震の影響が色濃く現れていました。

「余震が続き、恐ろしくて音に敏感になり眠れない」

「ずっと取り組んできた仕事が地震ですべてダメになり、立ち直れない」

「親を介護しながら自分も通院しているのに、被災して八方ふさがり」

「避難所はプライバシーがなくてストレスがたまる」

それまで何の疑いもなく今日も明日も明後日も続くと思っていた日常が、地震という災害によって突然大きく変化し、そこからくるショックと混乱と恐怖とが被災者に覆い被さっている様子が伝わってきました。

電話を受ける側の相談員は、お一人お一人のお話をうかがいながら、それまでの暮らしの中ですでに人生の孤独や人間関係などで精神的に苦しみ悩んでいた人々に、地震が追い打ちをかけるようにしてその辛さを重くしている、と感じました。震災が及ぼす影響が想像を遙かに越えていることに驚かされながら、被災体験を整理できない気持ちや将来への不安な気持ちに耳と心を傾けつづけました。そして「一人でいるのが恐ろしくて誰かの声を聞いているだけで楽になれる」、「経済的な事情からこのフリーダイヤルは助かる」という被災者の声に触れて、誰かに話したい、相談したいと思った時に電話をかけるところがあるということが、こんなにも心強いことなのだ、あらためて活動の意義を思わされました。

開設からしばらく経つと相談内容に少し変化が現れます。地震直後の対応に追われた時期から、困難の長期化から来る影響が顕在化してくる時期へと移ったようでした。

「もともと抱えていた持病が車中生活で悪化した」

「家族が私の苦しみを受けとめてくれず、関係が壊れている」

「避難所にいつまで居られるか、先を考えると不安」

「家を建て直す資金がない、どうしていいかわからない」

「疲れが溜まって眠れなくなり、うつと診断された」

内容は様々ですが、地震の直後は何とか気を張って対処してきたが身体にも心にも疲れが現れこれ以上がんばれない・・・と動けなくなっている心の様子が伝わってきます。復旧復興の号令が重たく響いたり、周囲の復興のスピードから自分だけが取り残されてしまったような感覚を持つたりと、被災者ゆえの複雑な心境も語られるようになりました。

相談員は、その方の気持ちに寄り添うような心を尽くしながら、思わずこちらも共に涙してしまうこともあります。被災者が置かれた状況の厳しさを知り、こうしてお話を聴くことで役に立つのかと自問することもあります。「地震のことではないのですが」と最初にお断りがあったけれど、ゆっくりとお話しただくうちにやはり地震が影響していると感じられ、じっくりと聴くことの大切さを再認識する、ということもあります。そして「身近な人に話したいが忙しくてなかなか聴いてもらえない、電話でこうして聴いていただけると落ち着くのです」との言葉に、相談員自身も深くうなずきながら、私たちはいつでもここにいますよ、と心の中で被災者に語りかけています。

被災体験も抱える事情も復興の状況も千差万別ですし、そこからくる苦しみも百人百様です。身近な友人や家族であっても、心の内側を余すところなく隠すところなく話し、聴いてもらうことは、容易なことではないでしょう。人に言えない苦しさを「聞いてほしい」と、いのちの電話に電話をくださる被災者の方々。相談員は、その方の今このときの気持ちを受けとめようと心を尽くして電話を受け続けました。そして今日も電話を受けています。

熊本地震の甚大な被害からの回復にはかなりの時間がかかるでしょう。困難が長期に及ぶことで更に深刻さを増していくことも容易に予想されますし、辛さの中で自死を考える方がおられるでしょう。私たちは、お電話くださる被災者お一人お一人の気持ちが、少しでも穏やかさを見いだして行かれるようお願いしながら、これからも活動して参ります。

「第34回いのちの電話相談員全国研修会」へ参加して

毎年、各地のセンターの持ち回りで開催される全国研修会。今年は奈良県天理市の天理大学を会場に、9月15日から17日までの3日間の日程で開かれました。熊本からの参加者も、各分科会に入って全国から集まった相談員の方々と共に実り多い時間を過ごし、有意義な研修となりました。この成果が今後の相談活動に活かされることを期待しています。

相談員 N

初めての参加でしたが、全国大会とはこんなにスケールの大きいものかと驚きました。天理大学の施設ということもあって、開会式、懇親会、分科会、そして宿泊は機会の少ない宿坊に、移動・分散が極力最小限でできるというメリット。一日目、開会式は講堂で始まり、基調講演は京都大学教授河合俊夫氏（河合隼雄氏子息）でしたが、私の能力には難しすぎて、租借できませんでした。懇親会は同大敷地内の宿坊（9階建て）でバイオリン奏者金関環氏と天理大雅楽部のコラボは洋楽と古典の調べが不思議とマッチして格調高い癒しの時間となりました。その後は、しばし丸テーブルの上のごちそうを堪能しながら、各地のメンバーとの交流が楽しめました。二日目、現地訪問学習として、9つのコースが用意され、奈良の名所・旧跡の神社仏閣に足を延ばし、当地の住職の講話、名だたる大学の教授のシェアリングと豊かな人材、メニューに、さすが、歴史・文化の地ならではの体験講座!! 三日目、半日の日程で「よのなか学習会」と銘打って、現代社会で相談ごととして浮上する7つの分野について、各々の専門家の講義が準備されていました。私は「性の多様性」に参加し、日本におけるLGBT支援の現状と未来について再認識をさせていただきました。短い時間と1コースだけの選択は実にもったいないと感じました。アツという3日間でしたが、参加の機会を与えて下さいました事務局をはじめ、同行を許して下さいました先輩お三方にお礼申し上げます。

相談員 I

一日目の基調講演は、アウトリーチとしての心理療法と現代のこころというタイトルでした。1.心理療法といのちの電話。共通点は話を聴く、つなげる。違いは、時間、場所、料金、プロとボランティア。2.アウトリーチの増加。元々クライアントが訪れたのが、今は、スクールカウンセラー、ターミナルケア等。3.セッティングと主体、自己関係としての心理療法。4.主体の喪失。個人の世界が外とつながっている。境界がない。(Line等) 5.スーパービジョンの大切さ。心理療法の消滅。高いお金を払ってまで来る人がいなくなる。心理療法は専門家、ターミナルケア、トラウマケア、危機介入。ターミナルケア、独自の問題を見つけることで不調が緩和される。新しいことは、怖いことだが、変わることが大切と話されました。二日目は「華嚴に学ぶ」に入り、東大寺の見学と、お釈迦様の存在と善財童子求道の旅の講話を戴きました。三日目は「リスクを背負う人たちのことを考えよう」社会の変化について、人と人との関係に関するいくつかの視点。Face To Faceの関係が弱まる傾向にある。有意義な三日間でした。奈良・いのちの電話協会の皆様と開場を提供して下さいました天理教にお礼申し上げます。有り難うございました。

相談員 A

「今をいきる、希死念慮をみつめて」に参加した。相談員になって間もなくして、今から死にます、と云って電話が切れた。翌日、飛び込み自殺の記事。もしかして・・・と、その思いがずーっと引きずっている。23年間の相談員経験。古来より、少しでも長く生きたいと云う人々の願いではあるが、その長生きを願う一方で毎年多くの人々が自らの命を絶つという現実。日本は人口10万人あたり自殺者数24.0人。統計にある世界104カ国の中で6番目に高い順位と聞いて驚いた。このような悲しい実態は、決して他人事ではなく、同じ時代を生きる私たちは、その人たちを支え、一人でも少なくなることに力を注がなければならない。古代より、日本最古の歴史書にも自殺者がいたと記されている。聖徳太子も49歳で自ら命を絶っている。いわゆる、「和を持って尊しとなす」と云う思いから、と説明。希死念慮にさいなまれる、その気持ちは決して個人の問題だけでなく、私たち一人ひとりに課せられた問題。自分を他者との結びつきが弱まり、電話が個人化し、人間関係が希薄となり、今後、いのちの電話が社会的な大きな役目を果たすことになるので、健康でいてください。そのためには、相談員のみなさんが大いに楽しんでほしい。雑感として、大変忙しく、それぞれの学習会場への移動も、この年齢では正直疲れました。しかし、人間関係の希薄化に伴い、いのちの電話はますます重要になるので、私自身理解できない問題、受け入れできない問題に出会ったときの対応に磨きをかけようと思う。「ワンコイン車座ミーティング」では、各々のセンターの実状を話し合う。熊本センターは自前のビル、駐車場も完備、恵まれていると実感しました。



開会式



懇親会(天理大学雅楽部)



よのなか学習会



交流会

感謝報告

ご支援いただきありがとうございました。

熊本地震の発生以降、たくさんみなさまからお見舞いと激励のメッセージを頂戴いたしました。
メールやお手紙、またご寄付の振込用紙に温かいお言葉を添えてくださったりと、
熊本の状況をご心配いただきお氣遣いいただきました。

毎年開催しているチャリティ公演が行えなくなるなど、運営への影響も少なくない事態になっており、
みなさまのご支援の有り難さを常にも増して感じております。
ご支援、心より感謝申し上げます。

寄付感謝報告

(平成28年6月15日～11月30日)

法人・団体の部

(敬称略・順不同)

(医)愛育会 福田病院	福田 稠	(医)孔子会	豊田 大徳	徳島県自殺予防協会	
(株)朝倉製作所	朝倉 吉治	神戸いのちの電話一同		長崎いのちの電話 有志一同	
出田法律事務所	出田 孝一	(株)公明不動産	平野 幸一	奈良いのちの電話協会 有志一同	
インマヌエル 熊本キリスト教会		(株)コスギ不動産	小杉 康之	西田総合保険(有)	西田 至
(株)NTF	寺地 弘幸	埼玉いのちの電話		西日本電材(株)	亀澤 知昭
N T T西日本 熊本支店	上山 圭司	埼玉いのちの電話 相談員一同		日本国際ギデオン協会熊本支部	
大村法律事務所	大村 豊	佐賀いのちの電話		(公財)日本財団	
沖縄いのちの電話 相談員有志一同		静岡いのちの電話		(株)八光電機製作所	野原 義壽
おむすび太郎	高口 恵子	(株)SYSKEN 及び社員一同	福元 秀典	法光寺	沖田 芳樟
財団法人 化学及血清療法研究所		(株)システムニシツウ	門岡 慎治	(医)松橋愛育会 まつばセレディースクリニック	
(株)川崎ハウジング九州	若林 和彦	(株)シズニック	古澤 和行		村本 順一
関西いのちの電話		(有)シーズユー		丸紅(株)	
九州通信産業(株)	成松 眞	シャロンゴスベルチャーチ前橋		三重いのちの電話協会	
九州ネクスト(株)	柿田 泰宣	新産住拓(株)	小山 英文	(株)ミスターリースリー	小野塚 博
熊本企業開発(株)		西部電気工業(株)		(株)みどりや	東 静一
熊本学園大学		全国通信用機器材工業協同組合		三原労務管理事務所	三原 裕樹
(社福)熊本県共同募金会		大一通信工業(株)	馬屋原孝憲	宮川輝之法律事務所	宮川 輝之
熊本県吟剣詩舞道総連盟	古庄 吟法	大栄産業(株)	吉森 敬仁	(有)都環境開発サービスセンター	康 英一
公益社団法人 熊本善意銀行		(株)竹内工務店	竹内 義雄	(有)宮崎保険事務所	
熊本第一信用金庫 清水支店		千歳公認会計士事務所	千歳 睦男	明正電設(株)	花田 龍美
熊本トヨタ自動車(株)	與繩 義昭	(株)鶴屋百貨店		森山法律事務所	森山 義文
(株)熊本日日新聞社	河村邦比見	東京エレクトロン九州(株)及び従業員一同		やまさき歯科医院	
熊本保健科学大学	崎元 達郎	東京多摩いのちの電話後援活動の会		446会	井上 英也
(株)熊本ホテルキャッスル	齋藤 隆士	(株)トウヤ		YMCAチャリティゴルフ会	
熊本ロータリークラブ		(株)トーツー創研	大松 郁夫		
熊本YMCA	岡 成也	遠山歯科医院	遠山 啓介		
香覚寺	小山 一行				

個人の部

(敬称略・順不同)

藍澤春美	小笠原嘉祐	後藤加奈	津原貴文	林久野信幸	村重秀夫
青木孝明	岡田洋一	藤宮伯孝	寺岡龍朗	野廣福別堀	山崎下村
荒木孝憲	小嶺正幸	櫻井孝洋	富岡田尾澤	石山田前	森森森山山
荒木孝伸	甲斐所久美	佐々木藤野	中西長中	堀本前	山内内
有馬修二	外貝久二	佐野幸和	長中長中	田原慎	山口村
有吉利幸	笠原正隆	島田水茂	中中中中	前原八	山井田
石川エミ	片岡隆起	柴田清杉	中中西西	松永下村	山井田
イタイケイ	片平敏愛	高橋勝己	中中西西	松永下村	山井田
稲尾貞臣	加門神谷	高橋英史	中中西西	松永下村	山井田
井上英由	神谷尚一	高橋良朋	根野野野	松永下村	山井田
井上久進	川中笠村	高橋勝己	野野野	松永下村	山井田
岩邊俊久	衣木窪田	高橋勝己	野野野	松永下村	山井田
岩邊昭八	木窪田山	高橋勝己	野野野	松永下村	山井田
上田富基	久保原秀	高橋勝己	野野野	松永下村	山井田
植村みどり	桑原秀	高橋勝己	野野野	松永下村	山井田
上敷辰男	後藤秀	高橋勝己	野野野	松永下村	山井田
及川陽		高橋勝己	野野野	松永下村	山井田

※切手、お茶、コーヒー等もありがとうございました。感謝をもって、ご報告させていただきます。



募金式自販機寄付 (平成28年11月30日現在)

募金式自動販売機設置にご協力いただいている方々 (敬称略・順不同)

(医) 愛育会 福田病院 菊陽レディースクリニック (株) 九電工 九州電機工業(株) 九州ルーテル学院大学	(医) 寿量会 機能病院 (医) 孔子会 孔子の里 金剛(株) (株) SYSKEN (株) 建吉組	(医) 寺尾会 寺尾病院 (医) 聖孝会 中村整形外科 松尾建設(株) 西日本電材(株) 北熊本乗馬クラブ	和みほいくえん 光進建設(株)
--	--	---	--------------------

古本寄付 (平成28年6月15日～11月30日)

古本寄付にご協力いただいた方々 (敬称略・順不同)

有吉利幸／石川泰弘／岡本幸恵／小野寺徳雄／小山善文／熊本トヨタ自動車(株)／桑原浩行／坂梨あやめ
佐竹信彦／(株) システムニシツウ／須永 清／高橋英史／陳 佳文／立部直子／(株) 建吉組／東神電気(株)
原 史章／東田恵子／福嶋由美子／明正電設(株)／屋代智子

**Facebook でも
ご支援のお願いを始めました**

今年6月に開始し、熊本いのちの電話への「一口募金」をお願いしています。また、私どものHPをご案内して活動についての情報を発信しています。

**ご寄付に対する
税制上の優遇措置について**

社会福祉法人熊本いのちの電話へのご寄付は、税務申告の際の税額控除対象として認定されています。詳しくは事務局にお問い合わせください。

ご寄付いただく際の振込用紙を新たに作成しました

ご寄付のお振り込みをいただく際に振込手数料が発生する場合がありますが、この度、肥後銀行、熊本銀行、熊本第一信用金庫のご厚意により、「熊本いのちの電話」への寄付金振込については手数料を免除いただけることになりました。

このご厚意により、寄付額から手数料を差し引いた額ではなく、ご寄付の全額が「熊本いのちの電話」に届くことになります。

今回新たに作成した専用の振込用紙をご利用いただき、上記金融機関の本店、支店でお手続きいただきますと、この免除の対象となります。

ご利用いただける方にはお送り致しますので、ご一報下さいますようお願いいたします。

ほめ言葉のシャワーでおなじみ

菊池省三氏を迎えて

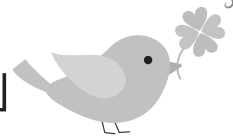
公開講演会のお知らせ

テーマ：「言葉の力で子どもを育てる」
と き：平成29年2月26日(日) 13:30から
会 場：くまもと県民交流館 パレアホール

入場料無料

声のボランティア

「あなたの声を生かしてみませんか」



今年もやります!!
相談員説明会

5月9日から第34期熊本いのちの電話電話相談員の養成講座が始まります。
「でもねー、少し不安だわ」と思われる方に、説明会を開催します。

い つ：平成29年3月10日(金)・11日(土)・12日(日)の3日間です。
どこで：市民会館シアーズホーム夢ホール 第6会議室です。
何時から：1回目のご説明13:30
2回目のご説明15:00 いずれも説明時間は1時間の予定です。

5月開講

平成29年度 募集

電話相談員の募集をはじめます。

養成講座のご案内

ボランティアです。

あなたの存在が
誰かの生きる力になります。

あなたを必要と
している人がいます。

私は誰かのために
何かできるはずです。

詳しくは、
熊本いのちの電話事務局に
お尋ねください。

事務局日誌

平成28年 8月～11月

28年 8月	18日	丸紅基金より 島崎氏来局
	22日	チャイルド・ファンド・ジャパン 細井氏来局
	27日	熊本地震いのちの電話打合せ 福岡センター
8月の取材		熊本日日新聞、朝日新聞、NHK熊本
9月	6日	チャイルド・ファンド・ジャパン 米山氏・本間氏来局
	11日	「熊本地震いのちの電話」九州地区事務局長会議
	13日	リソー印刷機 設置
	20日	第33期養成講座後期面接
	22日	熊本地震いのちの電話研修会 三重センター
9月の取材		NHKラジオ、福岡読売新聞、時事通信社、西日本新聞
10月	15.16日	熊本地震いのちの電話研修会 島根センター
	24日	ギテオン協会贈呈式
	30日	研修委員・研修リーダー合同全日研修
10月の取材		共同通信社、西日本新聞
11月	1日	少年鑑別所出前講義
	6日	熊本地震いのちの電話研修会 北九州センター
	7日	熊本市自殺対策連絡協議会、SYSKEN贈呈式
	11日	熊本ロータリークラブ贈呈式
	20日	研修委員会主催全体研修会 熊本県婦人会館
	24日	東京エレクトロン九州株式会社 贈呈式
	30日	熊本地震いのちの電話研修会 福岡センター
11月の取材		熊本日日新聞、朝日新聞

毎月10日 フリーダイヤル(10日08:00～11日08:00まで)
毎月第1木曜日 定例研修委員会、第2金曜日 定例運営委員会

編集後記

平成28年もようやく終わりました。4月14日、16日と熊本地震に見舞われ、被災の程度の差はありますが、熊本の人々にとって忘れられない一年となりました。

ようやく少しずつ落ち着きを取り戻しつつありますが、まだまだ不安もあり、一步一步未来へ歩んでいきたいと思っています。



社会福祉法人 熊本いのちの電話
事務局

〒860-8691 熊本中央郵便局私書箱155号
TEL096-354-4343

発行人: 福田 稔 編集: 広報委員会

熊本いのちの電話

検索



赤い羽根共同募金配分金により作成したものです。